



平成5年に再確認された
「シナイモツゴ」
(コイ目コイ科)

シナイモツゴ^{さと}郷の会

大崎市の天然記念物であるシナイモツゴの保護を契機に、旧品井沼の自然を守るため、小学校、大学、農業者、大崎市と連携した地域ぐるみの活動により自然再生活動を展開している。

また、2004年から水辺の自然再生活動を行っている研究者、団体等の紹介など、活動の普及を目的としたシンポジウムを大崎市内や東京で開催するなど、幅広い活動を実施している。



おおさき
宮城県大崎市



ため池の池干し作業



「おおさき生きものクラブ」
での活動状況

〔生物多様性の保全〕

周辺のため池に生息していたブラックバスを一掃し、里親制度により人工繁殖させたシナイモツゴやゼニタナゴを放流。地元の営農組合と連携し、生息池の監視をするなど生物多様性の保全に貢献している。さらにアメリカザリガニやウシガエルによりため池の生物多様性が損なわれていることから、効果的な防除装置「アメリカザリガニ連続捕獲装置」の開発、駆除の実施を進めている。

〔体験学習と教育〕

大崎市内外の学校・企業が「シナイモツゴの里親」となり、稚魚を育て、ため池に放流している。

また、大崎市及び市内の環境保全NPO団体と協力して、市内の自然環境に親しむ「おおさき生きものクラブ」の活動を行い、シナイモツゴやゼニタナゴが生息する小川での魚取り体験等を通じて、自然環境の豊かさを地域の子供達に伝えている。

〔地域社会の振興〕

シナイモツゴが生息しているため池の水を用いて減農薬・減化学肥料で作られた米を「シナイモツゴ郷の米」として認証し、地域で生物多様性保全に協力してくれる農家の販売支援を行っている。



「シナイモツゴ
郷の米」
として販売